

ちがいがあつたことなんでしょうか？
 年齢、性別、障がいの有無、国籍、価値観、育った環境、わたしたちは誰一人として同じではありません。けれども、だからこそ、対話やかかわりの中で学び合い、支え合う力が生まれます。

いま、社会のあらゆる場面で求められている「インクルージョン」という考え方。それは、だれひとり取り残されることなく、安心して自分らしく暮らせる社会をつくるためのキーワードです。

この特集では、市長とインクルージョン未来アンバサダーの3人の方の声を通じて、インクルージョンの本質に触れてみたいと思います。

株式会社マルカツ興産（柳沢政人社長）の所有する観光遊覧船「ブルームーン」は、函館の未来につなげるため障がい者のアート作品をデザインに採用。原画は「BLUE Hakodate プロジェクト（藤田道子代表）」に出品された作品。※これは市の事業ではありません。



おおいずみ じゅん
 函館市長 大泉 潤

誰も排除しない。誰も排除されない。

社会とは、家庭や職場、地域から、国や世界といった大きな枠組みまで、さまざまなかたちがあります。どんな社会にも共通するのは、「排除」が思わぬところで起きてしまいやすいということ。では、それを防ぐにはどうすればいいのか。わたしはインクルージョンという考え方が排除を防ぐための大切な力になると信じています。

さまざまな違いを受け入れ、互いに尊重し、共に生きる。多様な人が暮らしやすいまち、結果的に誰にとっても暮らしやすいまちになると考えています。

市民のみなさまの知恵と想いを重ねながら、函館らしいインクルージョンのあり方を一緒に育てていきたいと思っています。

インクルージョン未来アンバサダー



いけざき だいすけ
池崎 大輔 氏 (パラアスリート)

それぞれの個性を理解し、性別、人種、国籍、障がいの有無に関わらず、誰もが平等に受け入れてもらえる社会。その実現には、個々の価値を尊重し認め合える環境作りと情報発信が必要です。自分は障がいと共に人生を歩んでいますが、障がいの有無に関わらず、困難や悩みを抱えてる人はいます。皆さんの周りには話を聞いてくれている人はいますか？それぞれの個性や価値が理解されれば、人は生き生きとした人生を送ることができ、誰もが住みやすい町や社会に繋がります。

一人一人の意識で社会が変わる。変えられると思っています。

【プロフィール】
 函館出身の車いすラグビー日本代表選手であり、競技を通じてパラスポーツの発展に寄与し、世界大会での活躍は日本中に感動を与えるなどインクルージョンの普及に大きく貢献している。リオデジャネイロ2016パラリンピックでは銅メダル獲得、パリ2024パラリンピックでは金メダル獲得。

つじ さえ
辻 沙絵 氏 (パラアスリート)



私にとってのインクルージョンとは、障がいの有無、性別や国籍など、様々な立場の人が、お互いの立場を知り、認め合えることではないかと考えています。まだ世の中の制度や、仕組み、設計などがすべての立場の人にとって、良いものとは言い難い現状がありますが、前向きに、一つ一つより良い方向に変えていくためには、お互いを知り、認め合う、尊重し合うことからすべては始まると思います。

「みんな違って、みんないい」という言葉があるように、皆さんと一緒に違いを認め合い、すべての立場の人にとってより良い世の中にしていけるようアクションしていきたいです。

【プロフィール】
 函館出身の陸上選手であり、競技を通じてパラスポーツの発展に寄与し、世界大会での活躍は日本中に感動を与えるなどインクルージョンの普及に大きく貢献している。リオデジャネイロ2016パラリンピックで銅メダル獲得、東京2020パラリンピック、パリ2024パラリンピック入賞。



つるた たかふみ
鶴田 能史 氏 (ファッションデザイナー)

私はファッションデザイナーとして、年齢・国籍・性別・障がいの有無を問わず誰もが輝けるファッションを発信し続けております。

私がプロデュースしているHAKODATE COLLECTIONでは障がいのあるモデルが当たり前のように参加しています。誰も取り残さない事を大切にし、未来を作っていく希望あふれる子どもたちが、安心して歩める轍（わだち）を残していくことが大人の使命だと思っています。

私はファッションデザイナーとして『オシャレに』発信していくことを心がけております。本年4月に、障がいのあるアーティストの絵を採用した遊覧船「ブルームーン」のラッピングデザインをさせていただきました。輝かしい未来に繋がる大航海を発信し続けます。

【プロフィール】
 函館市で開催されるユニバーサルファッションショー「HAKODATE COLLECTION」(2023年度～)を総合プロデュースし、ファッションを通じて障がい者や性的少数者等をモデルに起用し、全ての人に希望を与えるなどインクルージョンの普及に大きく貢献している。

夏休みに読んでほしい本 5選

函館市中央図書館 認定司書 宮本さん



函館市中央図書館は、誰でも利用できるまさに「インクルーシブ」な施設で、関連書籍も多く取り扱っています。

これから暑くなりますが、図書館の中は涼しいですよ。夏休みを迎えるお子様の調べ学習のお手伝いもできますので、たくさんの方のご来館をお待ちしています。



新しい心のバリアフリーずかん
きみの「あたりまえ」を見直そう！
(中野泰志 監修/ほるぷ出版 刊)

「心のバリアフリー」は、「だれもがくらしやすい社会」を実現するために、社会によって生み出されたバリアや、自分の心のバリアに気づき、考え、行動すること。本書では、当事者の声を聞き、困っている人を見かけたときに、だれもが行動を起こせるようなヒントや実践例を多数掲載。



LGBTだけじゃない! わたしの性 (全4巻)
(佐々木孝子・長谷川幸延 監修/国土社 刊)

自分と他人の性を大切にしていけるよう、さまざまな性のありかたを学ぶことができるシリーズ。柔らかいイラストやマンガを通して、学校や友人関係などで生じる具体的な悩みや疑問について1つずつ丁寧に紹介。



「ちがい」ってなんだ?
障害について知る本
(井筒節・飯山智史・町田紘太 監修/Gakken 刊)

誰ひとり取り残さない世界に向けて「障害」の考え方や、世の中の変化を学べる1冊。学校や街中での事例がもとになっていて、自分に身近なできごととして考えやすい内容。



おはなしSDGs ジェンダー平等を実現しよう
おし屋のすてきな春原さん
(戸森しるこ 作/しんやゆう子 絵/講談社 刊)

小学5年生の主人公は、離婚した父に連れてきてもらったお寿司やさんで女性の寿司職人・春原(すのはら)さんに出会う。クラスメイトの女子の将来寿司職人になりたいという夢を否定されたときに声をあげられなかった主人公。春原さんのお店へクラスメイトを連れて行くことに。

みんなで考えよう! 「性」のこと「ふつう」って何? 性はいろいろ
(田代美江子 監修/アルパ 編著/金の星社 刊)

誰もが生きやすい社会を目指すには、性について一人ひとりが考え、認め合い、行動にうつすことが大切。国際的な性教育の指針に基づき、性別に対する思いこみや、ジェンダーバイアスなども解説。本書でその第一歩を。



函館市中央図書館

住所 函館市五稜郭町26番1号
電話 35-5500
時間 9:30~20:00
休館 毎週水曜日、毎月最終金曜日



展覧会
「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人
—たとえば「も」を何百回と書く。」

この夏、北海道立函館美術館で開催される展覧会。45人のつくり手による日本のアール・ブリュット作品約450点が展示されます。日本語では「生(なま)の芸術」と訳されてきたアール・ブリュット(ArtBrut)。1940年代、フランスの画家、ジャン・デュビュッフェが、既存の文化の枠組みには収まらないような、独学のつくり手などの作品に心を打たれ、提唱した美術の概念です。

この展覧会では、45名のつくり手たちによるさまざまな表現を通して、多様な世界観に触れることができます。また、函館展特別展示として、道南地域で活動している倍樓賢太、佐久間智之、佐藤朱美の作品も展示します。

見どころ1

日本のアール・ブリュット
作品数 約450点

2010年、パリで注目を集めた「アール・ブリュット・ジャポネ展」。日本国内7館で凱旋展も開催された貴重なコレクション(滋賀県立美術館所蔵 日本財団コレクション)が、ついに函館へ。世界でも注目を浴びた貴重なアール・ブリュット作品約450点を函館で一度に観ることが出来る機会です。



舩次 崇
《パンチとドライバーとノコギリとパンチ》
2006年
撮影: 麥生田兵吾



澤田 真一《無題》
2006-2007年頃
撮影: 麥生田兵吾

見どころ2

身近なモノ、日々の暮らしのなかから
生まれた作品

例えばダンボール、雑誌、チラシ、コピー用紙、方眼紙、粘土やマーカーなどから生み出される作品たち。生活することの延長線上で、つくることへとつながる冒険をご覧ください。



八島 孝一
《自転に乗った猫》
1999年
撮影: 麥生田兵吾



小幡 正雄《無題》制作年不詳
撮影: 大西暢夫
写真提供:
ボードレス・アートミュージアム
NO-MA

見どころ3

北海道のつくり手
4名の作品が故郷に里帰り

本展のコレクションには、北海道で作品制作を行ったつくり手4名の作品も含まれます。里帰りを果たす作品にぜひ会いに来てください。



畑中 亜未の制作風景
映像制作: 片山達貴



畑中 亜未
《一灯式青い夜光灯》
2003年
撮影: 大西暢夫
写真提供:
ボードレス・アートミュージアム
NO-MA

関連イベント情報

展覧会の会期中、さまざまな角度から子どもも大人も、また障がいのある人もない人も、みんながこの展覧会を楽しむためのイベントをたくさん実施します。ほぼ毎週末にイベントあり!

詳しくは
展覧会公式HP



基本情報

会期: 7/12(土)~9/7(日)
休館: 月曜日(7/21、8/11は除く)、
7/22(火)、8/12(火)
時間: 9:30~17:00 (入場は16:30まで)
会場: 北海道立函館美術館 特別展示室
住所: 函館市五稜郭町37-6
料金: 一般920(720)円、高大生610(410)円、
小中生300(200)円
※ () 内は10名以上の団体料金。未就学児無料(要保護者同伴)。リピーター割引、親子割引など、お得な料金もあります。
※無料になる方: 身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方(ミライロID利用可)及びその介護者(1名)など。
※学校の教育活動で利用する場合は無料。